2026年
3月

草の根

BULLETIN OF THE AICHI COUNCIL AGAINST A&H BOMBS

発行 原水爆禁止愛知県協議会
発行人 佐竹康行
〒461-0004
名古屋市東区葵1-22-26
Tel(052)932-3219
Fax(052)931-2651
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
毎月1回 6日発行
月40円/年間480円

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名

県内175，494筆

2026年2月10日 現在

2026年3・1ビキニデー 愛知からのべ141人が参加！

２０２６年３・１ビキニデー現地への愛知県代表団の参加はのべ１４１人となりました。国際会議に８人、東富士基地オプショナルツアーには13人、日本原水協全国集会に49人、３・１ビキニデー集会に70人です。また、オンラインでの参加はのべ75人です。

27日に開催された国際交流会議では、アメリカ、フランス、コスタリカ、韓国、日本の代表から報告があり、世界の安全保障がアメリカとロシアなど核大国によって蹂躙され、力の秩序に置き換えられようとしている。それをいかに阻止するのか、それぞれの国の闘いが紹介されました。アメリカのジョゼフ・ガーソンさんは「ＮＰＴ再検討会議に参加する代表団が登壇し、愛知からも金本弘愛友会理事長をはじめ愛知県の代表も登壇し、発言しました。

福島県浪江町からは、「震災前は2万5千人だった人口は現在2千5百人。津島地区は全域が高濃度汚染地域で現在は１・６％のみの除染」と復興が進んでいない実態が報告されました。

愛知県代表団も登壇し、西尾美沙子愛労連議長が愛知の反核・平和運動を報告しました。

全体集会後に分科会が開催され、第1分科会では日本原水協の安井さんが高市政権による改憲や核抑止強化を批判し禁止条約への参加を訴えました。本村伸子さんの発言では、草の根の運動で政権の暴走を止める重要性が語られました。沖縄、埼玉、瀬戸市などの各地からの運動報告があり、党派を超えた対話と連帯が核廃絶と平和への希望であると共有されました。

第６分科会「青年のひろば」には60人が参加し、はじめに金本弘愛友会理事長の被爆証言、次に日本原水協の嶋田さんが核兵器をめぐる情勢が報告され、その後グループに分かれて感想交流などを行いました。分科会終了後には、静岡駅で署名を集め、37人の参加で48筆が集まりました。

墓前祭に向け 墓参行進に71名で参加

３月１日は、午前に焼津駅から弘徳院まで墓参行進、その後久保山愛吉さんの墓前祭が行われ、午後からは被災72年３・１ビキニデー集会が開催されました。

はじめに、静岡県原水爆被害者の会副会長の松本潤郎さんが主催者あいさつを行い、「アメリカ・イスラエルのイラン攻撃は、報復の連鎖、核攻撃につながる」と強い危機感を表し、「核兵器は未来に影を落としている」と訴えました。

日本被団協の濱住治郎さんは「武力では平和をもたらすことはできない」と話し、イランへの攻撃に「強く強く抗議をしたい」と訴えました。また、被団協が今年８月で結成70年になることに触れ「被団協の結成宣言では、自らを救うとともに私たちの体験をとおして人類の危機を救おうという決意を表明した。日本政府に条約への参加を求めていく。共に頑張りましょう」と呼びかけました。

高草木さんは主催者報告で、ＮＰＴ再検討会議、原水爆禁止世界大会、国連総会、核兵器禁止条約の再検討会議、一つ一つを節目とし、被爆者とともに世界の平和運動に国際的行動をよびかけ、それに合わせ、国内では非核３原則の見直しや憲法の改悪、大軍拡を許さず、非核平和の外交と禁止条約への参加を実現させる国民的な対話と署名、原爆展などの取り組みを、「あのビキニ署名のように」を合言葉に、国民的な共同の行動とし、非核平和の日本を実現しよう、と呼びかけました。

第２部のはじめには、静岡のうたごえと焼津中央高校合唱部のみなさんが、久保山すずさんのビキニデー集会に寄せた手

紙を朗読し、「海に生きたあなたよ」「原爆を許すまじ」を合唱しました。

ビキニ事件当時、焼津で原水爆禁止の署名を集めた杉村征郎さんは、当時13才で焼津中学校の生徒会長だったと話し、なにもしない大人たちに疑問を抱き、自分たちで何かしようと久保山家を訪れ、励ましの手紙の返信運動をはじめたこと、隣町の中学校の生徒会長とともに原水爆禁止署名をはじめたことを語り、「どんな気持ちで原水爆禁止の署名に取り組んだのか。これからも多くの人に伝えていきたい」と話しました。

エバーグリーン静岡の高校生は「愛吉・すずのばら」活動と高校生署名の活動報告を行い、全国高校生平和集会を通じて、全国にバラの挿し木が広がったことなどを報告しました。

マーシャルからビデオメッセージでは、ビキニ環礁の核実験によって、何代にもわたって苦しみが続いている現状が語られ、「核は国境を越えて被害を与える」と語りました。また、「今、マーシャル諸島では運動の先頭に立つ青年が増えているが、今もなお故郷に帰ることができない。アメリカは全てを明らかにし、補償する義務がある」、「ビキニデーは世界が過去の悲劇から学ぶ場だ」と訴えました。

特別企画では「戦争か平和か、歴史的岐路にある世界と日本―危機を乗り越える展望と運動の役割」と題して、はじめにプロダイバーで環境活動家の武本匡弘さんからの特別報告があり、次にアメリカのアン・ライトさん、韓国のイ・テファンさん、日本共産党の吉良よし子さんの鼎談が行われました。鼎談を通じて、戦争を無し対話で平和を築くために世界の平和運動家、労働者、市民の連帯が求められていることを訴えました。

最後に「焼津アピール」が会場の拍手で採択され、閉会しました。

今こそ草の根からの運動を
2026年定期総会を開催

2月15日、愛知県原水協2026年定期総会を民主会館2階会議室で開催し、会場とオンラインを合わせて43名の参加となりました。

西尾美沙子愛労連議長が開会のあいさつを行い、「ノーベル平和賞を被団協が受賞した事の功績を私たちが伝えていかなければならない」「非核3原則の見直しなど、平和、戦争への危機感は高まってきている。対話で世論を広げていきましょう」と語りました。

今年の総会では例年のような講演会ではなく、学習会「非被爆者が語る被爆体験」として、あいち被爆者支援ネットワーク事務局長の長尾忠昭さんと佐竹事務局長が被爆者の体験を基に被爆証言を語りました。

長尾さんは、入試被爆者で原爆症集団訴訟の原告だった甲斐昭さんの証言を、佐竹事務局長は長い間被爆者であることを妻以外に話さなかった真弓悟さんの証言を基に、被爆者が描いた絵や広島・基町高校の生徒が被爆者から証言を聞きながら共に描いた絵画を紹介しながら、被爆直後の惨状や被爆者としての苦しみを語りました。

金本弘愛友会理事長の連帯のあいさつでは、今年は被団協結成70年であることに触れ「あきらめないことが本当に大事。今年も被爆80年の昨年と同じようにがんばらなければならない」と語り、昨年11月に被爆2世・3世や青年とともに広島を訪れ、自分が被爆した場所で証言したことを話しながら「今日、非被爆者が語る被爆証言を聞きながら、誰かが私の証言を継いでくれるという事は私はずっと生き続けていくんだ。誰かが証言をしてくれるなら被爆者は生き続けると感じた」と、最後に「被団協、原水協、原水禁、その他いろんな団体が一つになって世界と日本政府と闘い続ける、あきらめない姿を見せていかなければならない。みなさん、一緒にがんばりましょう」と力強く呼びかけました。

２０２５年の総括と２０２６年運動方針の提案を佐竹事務局長が行い、被爆80年を迎えた中で、あいち平和行進では９コースが増え、54自治体全てで平和行進が取り組まれたこと、被団協のノーベル平和賞受賞を機に金本愛友会理事長、大村県原水協代表理事への講演依頼が殺到し、今も多くの依頼が寄せられている状況であること、各地で原爆パネル・高校生の絵画の展示が取り組まれたことなどを報告し、方針では日本政府に禁止条約参加を求める署名を中心に「非核日本キャンペーン」を進めていくことが提起されました。

討論では、自治労連の長坂さんが地方自治と平和行政について、「地方自治体が平和な地域づくりの役割を果たせという取り組みも重要」「市民から自治体へ平和行政、核兵器なくせの要請をしていくこと、色々な角度から市民のニーズ、声があることを自治体に知らせていくことが大事」と発言しました。

名古屋市職労の磯村さんは、「教師であり僧侶だった祖父が東南アジアで学校で教えるため昭和19年に呉港から出港し、おそらく翌日に爆撃され海に沈んだ。遺骨も帰ってきていない」と語り、名古屋市職労では平和学習として金本さんと大村さんの話を聞いたこと、平和行進で「(他の市の)市長、副市長の出迎えに驚いた。名古屋市も駐車場の片隅を貸すだけでなく、エールを送ってほしいと思った」と発言しました。

ＮＰＴ再検討会議に参加する福祉保育労の西川さんは、「60年、70年、80年の世界大会に参加して、現地で話しを聞くことの大切さを感じた。もっと学んでみんなに返していければと思っている」と決意を語りました。

新婦人の小池さんは、新婦人の支部、班の半数近くが高校生の絵画を手元に用意して、どこでも展示できるようにしていること、子ども食堂や名東区の小学校での展示したことを紹介し、「地元でのパネル展でつながりを作り、世界大会やビキニデーに多くの人を送り出していきたい」と発言しました。

瀬戸反核センターの竹元さんは「毎月２００筆の署名を集めている。反対の人とも話すことが大事」と話し、今月集めた２００筆の署名を事務局長に手渡しました。

新役員のあいさつでは、松田さんが「憲法を守る、変えさせない。２度と戦争させない、戦場に教え子を送らないという思いを伝えてく」「今年はＮＰＴ、ＴＰＮＷの会議がある。世界の人々との連帯して、核兵器廃絶に一歩でも二歩でも近づけるように力を合わせてがんばっていきたい」と語り、最後に新婦人の小池さんが「今はみんなと話しをし、広げていかなければ私たちは運動を止めてしまうことに。ビキニデーや被爆のことを知らない人を、一人でも二人でも誘って参加してもらい大会を成功させたい。みなさん、がんばっていきましょう」と閉会のあいさつを行い、終了しました。